高等学校現代社会における“言葉”の問題に関する事例的研究

教育実践高度化専攻
教育実践リーダーコース
大野　健太

Ⅰ　問題の所在

国立教育政策研究所（2005）が行った教育課程実施状況調査によると,「現代社会の授業がどの程度分かりますか」という質問に対し，授業内容の半分以上を理解していない生徒が 63.3%にのぼった[1]。寺尾（1998）は，学習者は内容理解の過程ではコトバ（言葉）が不可欠な媒介となることを明らかにした[2]。

平林ら（2009）は，小学校社会科の授業に『学び合い』を導入し研究を行った[3]。

『学び合い』とは，西川（2013）が提唱するアクティブ・ラーニングの授業形態を指し,『学び合い』では,「一人も見捨てない」という願いのもと，学習者同士の自由な関わり合いを重視し，子ども同士で教え合い，学び合い，自発的に学習を進めていく[4]。

平林らの研究の結果，学習者は重要語句や難解な語句とされる社会科用語だけでなく，それ以外の言葉にも多く躓き，その躓きを相互に関わり合うことによって解決していることを明らかにした。また，学習者が言葉の問題に直面したことを呟き等の言語活動によって周囲に可視化し，周囲の反応を状況的に判断して即座に解決法を選択して問題を解決していることを明らかにした。そして『学び合い』の継続が社会科の学習内容の理解を促し，学力の向上へつながることを明らかとした。

また岡田ら（2014）は，高等学校地理Ｂで『学び合い』授業の実施調査を行い，学習者は地理用語だけでなくそれ以外の用語にも多く躓くことを明らかにし，その躓きは周囲と関わりながら解決方法を主体的に選択し，ほとんどの躓きを解決していることを明らかにした。岡田らは『学び合い』は高等学校地理歴史科，地理Ｂの言葉の問題に対して解決の一助であると述べている[5]。

しかし，高等学校現代社会において，授業中の会話から生徒の“言葉”の躓きの実態を明らかにし，それらの言葉の躓きがどのようなものであるか，またその躓きの解決がどのように図られていることを明らかにした研究は見当たらず，高等学校現代社会での『学び合い』の有効性を明らかにした研究は管見の限り見当たらない。

Ⅱ　研究の目的

本研究では，調査期間中一度も欠席していない生徒４名を無作為に抽出し，総発話時間のうち，言葉に関する発話時間を明らかにする。また，それらの言葉の種類の分類を行い，これらの結果をもとに，躓いている言葉をどのように解決しているのかを明らかにしその解決状況も明らかにすることで,『学び合い』が高等学校現代社会における生徒の言葉の躓きを解決する一助であることを明らかにする。

Ⅲ　研究の方法

1　調査期間

平成 28 年 11 月 15 日　（市民生活と法）

平成 28 年 11 月 18 日　（法の支配と人権）

2　調査対象

A 県立 B 高等学校 1 年

現代社会のクラス（20 名）

3　調査方法

・教室全体を撮影するため教室対角線上にビデオカメラを 2 台設置する。

・学習者全員にボイスレコーダーを身につけさせ，授業中の会話を記録する。

4　分析方法

（分析 1）学習者の学習活動時間においての発話を，岡田ら（2014）[6] に準拠して「言葉に関する発話」と「その他の発話」にカテゴリで分析を行う。

カテゴリ	発話内容
言葉に関する発話	言葉の意味や使い方等に関する発話
言葉に関するもの以外の発話	「言葉に関する発話」以外の発話

（分析 2）分析 1 のカテゴリ分析で抽出した「言葉に関する発話」を岡田ら（2014）[7] に準拠し「現代社会用語」と「現代社会用語以外」とに分類し，学習者がどのような言葉に躓いているか明らかにする。

（分析 3）分析 2 で抽出した言葉の理解について，意味が分かり，学習を進めることができている事例の割合を取り出す。

（分析 4）分析 3 で言葉の意味を理解し学習を進められた発話事例から，言葉の躓きについてどのような解決策を講じているか，岡田ら（2014）[8] に準拠し「他の学習者」・「教科書等」・「授業者」にカテゴリ分類を行う。

カテゴリ	内容
他の学習者	他の学習者に聞くことで躓いた言葉を理解し，学習を進める場合
教科書等	教科書や配布資料などを用いて言葉の意味を理解し，学習を進める場合
授業者	授業者に聞いて言葉の意味を理解し，学習を進める場合

Ⅳ　結果と考察

発話分析から，学習者の授業内における発話時間の実態が明らかとなった。その発話の中から学習者は現代社会用語に躓き，それらの多くは，周囲の人と関わることで解決できた。これらのことから，『学び合い』は高等学校現代社会における言葉の躓きを解決する一助となることが明らかとなった。

引用・参考文献

1) 国立教育政策研究所:「質問紙調査結果集」，p473, 2005.

2) 寺尾健夫:「歴史理解を推進するキーワードとキー概念」，社会科研究，Vol. 149，pp. 1-10，明治図書，1998.

3) 平林邦章，西川純，岩崎太樹，水落芳明:「小学校社会科における“言葉の問題”に関する研究」，臨床教科教育学会，第 9 巻（2），pp. 9-18，2009.

4) 西川純：「学校が元気になる『学び合い』ジャンプアップ」，p. 17. 学陽書房，2013.

5) 岡田哲典，関谷明典，西川純:「高等学校地理での“言葉”の問題に関する事例的研究」，臨床教科教育学会，第 14 巻（1），pp11-18，2014.

6) 前掲書 5)

7) 前掲書 5)

8) 前掲書 5)

指導　西川　純